

医療法人恵生会 南浜病院

2014-2015 Annual Report



ご挨拶

年報を発刊することが出来ましたことは大変な喜びです。

このところ少子高齢化が大きな社会問題となっており、日本の将来はどうなるか不安を感じているところですが、さらに団塊の世代が後期高齢者になる2025年には切実な問題になります。これに向けて国は社会保障改革のビジョンのなかで、病院の機能改革や地域包括ケアシステムを構築して行くようですが、心配なのは認知症患者が予想を超えたスピードで増加していることです。政府の発表によれば認知症患者は2012年に462万人となり、四国の総人口414万人を上回ると言われています。そして今から10年後の2025年には700万人を超えて、65歳以上の5人に1人が認知症患者になると推計されています。

この状況を踏まえ、国は認知症患者が地域で自分らしく暮らし続けることができる社会を実現するために、国家認知症対策オレンジプランを策定しました。これは医療施設が認知症の患者を早期に診断し、その後の病状の変化に速やかに対応できる体制を目指しています。個々の医療機関はこのような政府の意向を踏まえて自分の病院で何が出来るかを考えて行かなければなりません。

どこの病院の管理者もより良い医療の提供の為、常に厚労省の意向と患者の思いを汲み取って病院運営を目指していると思いますが、このところ個人の病院に対する要望は多岐にわたり高まっており、それに応えるような思い切った発想のもと、患者が満足できる病院づくりが大切になります。方向を見失うと気が付かないうちに取り残された病院になってしまうのです。

私が南浜病院に働くことになったのは平成13年秋でした。あらかじめ精神科病院のイメージはあったのですが、一般病院からやってきた者にとって居住環境はあまりにも違ったものでした。例えば、鉄柵のある窓の病室は暗く、狭く、混沌としており、各病棟へのアクセスは現在の医療施設から見れば無駄が多い構造でした。これでは病院として恥ずかしいと思っていたところ、非常にショックな出来事がありました。入院予定の女性に「こんな暗いイメージの病院には入院出来ません。」と断られたのです。この言葉を受け、現状の病院では将来はないとはっきり感じ、利用者や地域医療の発展の為、病院の新築にふみきました。経済的に大きな不安はありましたが、新築後は多くの人達より「きれいな病院で精神科病院のイメージは変わりましたね。」と言われ大変よかったと思っています。

これからも国の施策や地域住民の要望に応えるよう、しっかりと目を向けて病院の運営を行いたいと思っています。

平成27年11月

医療法人恵生会

理事長 鈴木好文



目次

p.005

概要

基本理念	006
沿革	007
グランドデザイン	008
施設概要	012
組織図	014
要員配置表	016

p.017

論文報告

論文報告	017
------	-----

p.027

実績報告

診療部	028
医局	029
歯科	031
薬剤科	032
放射線科	034
臨床検査科	035
栄養科	037
心理室	038
総合支援室	040
デイケア科	043
作業療法科	045

p.047

実績報告

看護部	048
外来	050
2階病棟	051
3階病棟	053
4階病棟	055
5階病棟	056
1階北病棟	058
中央材料室	059

p.061

実績報告

事務部	062
総務課	063
医事課	065
施設管理室	066

p.067

実績報告

福祉事業所	
障がい福祉サービス事業所 いなほ園	068
福祉ホーム あさひ荘	069
診療所	
とよさかクリニック	070

p.071

委員会活動報告

人事考課委員会	072
教育委員会	073
広報委員会	077
情報委員会	079
医療安全対策委員会	081
リスクマネージャー委員会	083
行動制限最小化委員会	085
院内感染防止対策委員会	087
ICT委員会	089
褥瘡対策委員会	091
NST委員会	093
薬事委員会	095
病院食検討委員会	096
衛生委員会	097
医療観察法運営委員会	098
退院支援委員会	100
業務改善委員会	102
未収金対策委員会	104
心理社会療法委員会	106
デイケア科運営委員会	108
精神科救急病棟建設準備委員会	110

p.111

トピックス

心理社会療法プログラム	112
就労セミナーについて	113

p.115

業績

社会貢献	116
著書	119
論文他	119
研究発表	120
講演、座長など	120
実習生受け入れ	121

p.125

院内研究発表・研修

入賞研究（3例）	126
ケースレポート（4例）	132

p.145

1年間の出来事

1年間の出来事	146
---------	-----

p.153

病院統計

病院統計	154
------	-----

p.167

クラブ・同好会活動報告

活動報告	168
------	-----



南浜病院年報発刊 によせて

平成26年度南浜病院年報をお届けします。

当院は平成18年の新病棟建設以来の2大方針として急性期治療の充実と地域移行・地域生活維持の促進を掲げてきました。急性期治療についていえば、平成26年度から当院は新潟県精神科救急システムの北圏域基幹病院として位置づけられ、水曜日全部と木曜日の4分の3の夜間救急を担当しています。今年度から新潟県の精神科救急システムは長年懸案だった全県1圏域の解消が実現し、平日夜間完全2圏域制に移行しました。またずっと必要性が求められていた精神科救急情報センター、精神科（緊急）医療相談窓口が県立精神医療センター内に設置され精神科救急システムの円滑な運用により一般の方々に、適切な精神医療をより早く届けられるようになるための機能が期待されています。精神科救急システム整備は新潟県にとって長年重要な課題でしたが、その整備に当たって、圏域の基幹病院の役割を与えられたことは大変名誉かつ喜ばしいことです。当院急性期治療病棟60床の平成26年度実績は、新規入院患者比率は90%超、新規入院者3ヶ月以内の退院率は60~70%を維持しており、非自発的入院者の比率も60%を超え、十分基幹病院としての役割を果たしているのではないかと思います。

一方地域移行・地域生活維持に関しては、平成26年度には精神保健福祉法の改正があり、ニューロングスティの防止を目的に、医療保護入院時の入院診療計画書に予定入院期間を明記すること、退院後生活環境相談員を指定すること、計画書の期間を超えて医療保護入院が継続するときには退院支援委員会を開催することなどが新しく決められました。当院の退院支援については、平成16年に全面新築構想及び病床削減が打ち出され、転院は極力避けるという原則の下、必要に迫られた形での長期入院者の退院促進・支援プログラムを始めました。平成19年までにプログラム参加者48名中40名が退院しましたが、これら対象者の平均年齢は約60歳、平均入院期間は23.4年という長期入院者でした。当初職員が交替で共同住居に泊まるなど、単に一部署にとどまらない病院全体の取り組みであり、その後現在まで続く入院治療や退院に対する職員の意識変化の基礎となったと思います。この退院促進・支援プログラムは現在も、精神保健福祉法の改正で規定された医療保護入院者の退院支援委員会とは全く別に院内退院支援委員会として継続されています。

そのほか重要なこととしては、平成26年度には厚生労働省が制定する「次世代育成支援対策推進法」に基づく「子育てサポート企業」として認定され「くるみんマーク」を取得しました。県内企業では22番目ですが医療機関としては初めての取得です。当院が取り組んできた職員のワークライフ・バランス改善の結果によるもので、今後もその維持に努力したいと考えています。

平成27年11月

医療法人恵生会 南浜病院

院長 後藤 雅博